

(社)日本原子力学会 標準委員会
第4回 原子燃料サイクル専門部会(FTC) 議事録

1. 日時 平成12年12月5日(火) 13:30~15:30

2. 場所 (社)日本原子力学会 会議室

3. 出席者(敬称略)

(出席委員) 東(部会長), 有富, 菊池, 鬼澤, 金木, 谷本, 鍋島, 三塚, 森山
吉海(10名)

(代理出席委員) 西岡(宮崎委員代理), 西村(宮川幹事代理), 長田(駒田委員代理), 関根(松岡委員代理), 林
(山根委員代理) 増田(水谷委員代理), 森(佐藤委員代理)(7名)

(欠席委員) 鈴木(康)(副部会長), 青木, 川上, 小佐古, 高橋, 田中, 松本(7名)

(常時参加者) 荒木, 飯村, 河本(3名)

(発言希望者) 尾寄, 高橋(2名)

(傍聴者) 白木, 三澤(2名)

(事務局) 太田, 市園

4. 配付資料

FTC4-1 第3回原子燃料サイクル専門部会議事録(案)

FTC4-2 標準委員会の活動状況

FTC4-3 標準原案に対するご意見について

FTC4-4 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準(案)

FTC4-5 原子燃料サイクル専門部会 分科会活動状況

FTC4-6 標準本体附属解説目次構成について

FTC4-7 使用済燃料中間貯蔵施設の安全設計・評価基準〔金属キャスク貯蔵方式〕(案)の作成に関する検討状況報告

FTC4-8 臨界安全管理分科会の検討状況について

FTC4-9 標準委員会 専門部会運営通則

FTC4-10 標準委員会規程・運営内規・専門部会運営通則の解説

FTC4-11 標準原案審査のガイドライン

FTC4-12 標準委員会 標準作成手引き

FTC4-13 日本原子力学会標準 制定スケジュール(案)

参考資料

FTC4-参考1 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事内容

(1) 出席者の確認

事務局より、出席者の確認の結果、24名の委員中10名の委員と7名の代理委員の出席があり、決議に必要な委員数(16名以上)を満足している旨の報告があった。また、事務局より佐藤委員より退任の連絡を受けている旨の報告があった。鍋島委員より森氏(原子燃料工業)を新たな委員とする提案があり、全会一致で承認された。さらに、臨界安全管理分科会にて新たに委員として選任された林氏(関西電力)を全会一致で承認した。

(2) 前回議事録の確認

事務局より前回議事録の確認を行い以下の修正の後承認された。(FTC4-1)

5. (4) 3行目「放射性廃棄物分科会」を「放射性廃棄物管理分科会」に修正

(3) 活動状況報告

事務局より標準委員会等の活動状況の報告を行った。(FTC4-2)

(4) 使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準(案)の公衆審査について

事務局より公衆審査において2件の問い合わせがあったものの標準原案への意見が無かった旨の報告があった。(FTC4-3,4)

(5) 分科会報告

a. 放射性廃棄物管理分科会

森山委員より報告があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(FTC4-5,6)

- ・ 分科会にて検討を進め、考え方の統一ができていない部分が明らかになってきている。合意ができる範囲を標準としてまとめたい。また、学会のバックエンド部会に意見を求める予定である。
- ・ 総説的なガイドブックもバックデータを多く含んでおり、別途まとめる予定である。
- ・ 遅延係数の推定にどの程度使えることができるのか。
- ・ 平衡状態になれば同じ値になるものの、実用を考慮し、安全側に検討し、学術的にも問題ない方法を定めることができれば、有用な標準になると考えている。

b. リサイクル燃料貯蔵分科会

有富委員及び高橋氏より報告があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(FTC4-5,7)

- ・ 国の技術要件を具体化する基準として検討を行っている。
- ・ 金属キャスクの構造要件については、機械学会にて検討を行っている。
- ・ 説明用資料として、全体構成図における液体廃棄物系は、貯蔵容器の密封要件と異なるイメージを受ける可能性がある。
- ・ 貯蔵施設としてどの部分の標準となるのか、既存の施設と重なっている部分があり、その関係をどのように考えていくのか。
- ・ 既存の基準類の原則的な部分は、引用等により取り入れ、作成する標準は、貯蔵施設及び輸送貯蔵兼用容器の基準が二つの柱となる。
- ・ 異常時として、貯蔵建屋の有無等により評価条件が異なるが、貯蔵エリアのクレーンの落下により二重の容器密封シール部の片方が破損することを想定している。

c. 輸送容器分科会

有富委員及び尾寄氏より報告があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(FTC4-4,5)

- ・ 標準作成手引きの制定、標準委員会委員による決議投票に伴うコメントにより、使用済燃料・混合酸化物新燃料・高レベル放射性廃棄物輸送容器定期点検基準(案)について編集上の変更が行われている。
- ・ 平成13年3月頃より、輸送容器の安全解析手法の標準化の検討を行う。検討期間は約2年を予定している。

d. 臨界安全管理分科会

林委員代理より報告があり議論が行われた。主な意見を以下に示す。(FTC4-5,8)

- ・ 臨界事故防止対策の堅牢性とあるが、すべて全濃度安全形状管理とするといった内容となるのか。
- ・ いくつかの対策の組み合わせで必要な信頼性を達成することについて検討している。
- ・ 指針と標準の関係をどのように考えているのか。
- ・ どのような手法、手順で設計、管理すれば、指針に適合できるかを具体的に検討している。
- ・ かなり困難な内容と思われるが、4月に骨子作成とあるのは、現時点の検討が終われば、標準の作成は短時間でできると考えているのか。
- ・ 順調に検討が進んだ場合のスケジュールであり、状況により変更される可能性がある。

以上の議論を踏まえ第7回標準委員会へ各分科会の検討状況報告を行うこととなった。

(6) その他

事務局より標準委員会専門部会運営通則、標準原案の審議に関するガイドライン及び標準作成手引きが標準委員会にて制定された旨の報告及びその説明があった。また、事務局より各分科会の検討状況に基づく、標準制定スケジュール(案)の紹介があった。

(7) 今後の予定

第5回原子燃料サイクル専門部会については、事務局より別途連絡を行うこととなった。

以上